

Main table containing race results for various tracks including 中山 (Utsunomiya), 京都 (Kyoto), 大井 (Oiwake), and 浦和 (Utsunomiya). It lists race numbers, names, jockeys, and results.

① ハンデ57キロ以上
② 着 昨年ダービー脚1着
③ スマイルジャックは同ハン
④ 着の昨年京成杯A H 2着
⑤ リアルインパクトは今季10着
⑥ 着でハンデ58キロ
⑦ リアルインパクトは重賞だけに狙いつらい
⑧ 着でハンデ58キロ
⑨ リアルインパクトは重賞だけに狙いつらい
⑩ ダイワファルコンはタメで切れるタイプではなく二千前後の持久力勝負に向く。その
⑪ 形に持ち込めるかが鍵
⑫ ファイアーフロートは意外

ダイワマッジョーレは、東京新聞杯で上がり32秒7の末脚を繰り出しての着。前半が2秒3遅いスローを、馬群をぬって一気に伸びてきた。マイラーとしての資質は一流。今が充実期でもあり、据え置き56キロのハンデならチャンス。2ヶ月近くあけたローテーションも好感。コース巧者のダイワファルコンが相手。千六の距離はOK。「力接近」

「本紙の見解」
高き資質のマッジョーレ
ダイワマッジョーレは、東京新聞杯で上がり32秒7の末脚を繰り出しての着。前半が2秒3遅いスローを、馬群をぬって一気に伸びてきた。マイラーとしての資質は一流。今が充実期でもあり、据え置き56キロのハンデならチャンス。2ヶ月近くあけたローテーションも好感。コース巧者のダイワファルコンが相手。千六の距離はOK。「力接近」

「展開」
遅い流れでBコース2日目。無用なコース損は避けたい。先行10は安定。落ちていければ3が迫る。伏兵のイン突き注

「馬単」
馬単
5→10
5→3
5→13
10→3
5→7
5→15
10→13
10→15
13→5
13→7
13→15
15→3
15→7
15→10
15→13

「3連複」
3連複
3510
351013
5710
571015
1510
3513
357
3515
135

「3連単」
3連単
1着 5
2着 137
3着 101315
(30点)

「相本」
相本の単複連
7歳にして初コース。不器用そうに映るダノンヨーロだが、途中スパイトも可能な小回りコースの方がかえって合う公算大。ボン駆けOK、きっちり仕上がった。

「相本」
相本の単複連
7歳にして初コース。不器用そうに映るダノンヨーロだが、途中スパイトも可能な小回りコースの方がかえって合う公算大。ボン駆けOK、きっちり仕上がった。





大川浩史

一生に一度

大阪杯には3年前の勝ち馬と一昨年の③着馬と昨年の勝ち馬が出走する。しかもショウナンマイティを除くと、過去に好走した時よりも斤量が軽い。今の「グレード別定GⅡ」は過去の実績馬に異常に優しく、1年以内のGⅠ勝ち馬でも最高58キロ。さらに1年間GⅠ・GⅡを勝たないと軽くなる。

競馬編長の眼

凱旋門賞に再挑戦するためには、ジェンティルドンナ、ゴールドシップとチャンピオンの座を争うためにも、大阪杯のオルフェーヴルは快走したい。

折り返しを欠いて行きたがる失態は許されない。ムチは入れられない馬になっている。天才のプライドを傷つければ、騎手を振り落とす。斜行することもある。池添騎手は黒子に徹し、天才オルフェーヴルの意に添うジョッキーになれるだろうか。3冠馬は過去に6頭いた。父は7歳まで走ったステイゴールド。母の父メジロマックインも6歳までトップだった。オルフェーヴルの活躍期間は長いと思えるが、3冠馬が5歳時走り続けるのは珍しい。過去の3冠馬6頭のうち、5歳時に走ったのは3頭。その成績は合計【1203】だった。栄光のチャンピオンは「不滅

Table with 2 columns: 11R3 連復 上位1~25% and numerical values.

競走馬の現役生活が長くなることは悪いことではないが、システムで後押ししている面もある。スポーツは「やってくる方にとって残酷」な方が観ている方には面白いので、「細く長く」には面白い。メンバリーで似たような競馬を繰り返されても面白くない。一生に一度の3歳クラシックは、だから面白い。伏竜Sはクラシックでも何でもないが一生に一度しか出走できない。だからどうしたという話だが、本命はコパノリツキ。前後半5秒差のハイペースで好位から粘った前走③着は極めて優秀ではない。死力を尽くしたから3冠馬となり、4歳時はエースの座に君臨したのである。5歳時まで走ったチャンピオンは例え引退する。まだ例外はない。

などといったながら、オルフェーヴルには今年こそ世界に名を馳せる偉業達成を望みたいが、昨年より穏やかになることはあっても、強くなることはない。生命体なのだから。心の底にはいつも、マックインの血が流れるステイゴールド2世のオルフェーヴルがいていいが、オルフェーヴルがいるとなると、妙にすり寄ってくる人間は必ずしも好きではないのである。この距離二千こせベスト【3301】のダーシャドウの巻き返しに期待したい。祖母ユージェフィアの全兄に快速系の種牡馬グリーンデザート(父ナンチヒ)をもつ血統背景もあって、ジャパンCJ有馬記念はやっぱり距離が長かった。一昨年が大阪杯レコードの1分57秒8と、差。その秋の天皇賞が1分56秒2で、小差②着。着外1回も3走前の1分57秒7。二千ならA級である。(柏木)

Table with 2 columns: 11R3 連単 上位1~25% and numerical values.



小木曾大祐

発見系

中山競馬は今週から芝はBコースを使用、3メートルほど内ラチが外へ移動します。先週は荒れたインコースを避けた競馬が多くありましたが、悪い部分が多くなる今週は、インコースが隠されるはず。まず⑥Rのケンブリッジサン。デビュー戦はゴットフリートの②着。2戦目で4馬身差をつけての逃げ切り、3戦目は東京スポーツ杯④着。それからですが、ひと息入れてリフレッシュ。距離短縮も好材料、自慢の先行力が活きる舞台で巻き返しを狙います。

②Rはツインクルスター。先行馬です。見当たらない組み合わせ。単騎逃げ必至、迷わず1着固定です。

競馬人情 吉川良

3月17日の阪神大賞典でゴールドシップの強さを見た。3月24日の高松宮記念でロードカナロアの強さを見た。3月31日の未明、ドバイでジェンティルドンナが、その日の午後産経大阪杯でオルフェーヴルが強さを見せてくれるだろう。強い馬の圧倒的な走りを見る。競馬を知らない人にはわからない。この世の幸せだ。知らない、この世の幸せだ。川崎に住む造船技師の雄さんから、3月16日の中山4R、障害未勝利のバドックを歩くタニノハービー(牡4歳)の写真を同封した手紙がきた。昨年、72歳で亡くなった雄さん



藤本貴久

囁き

中山11Rホーカーテンペスト 牛井生野菜を注文も順番飛ばされ即クレーム。すると店員はえっ?みたいな表情で謝りすぐ出てきたが、私は見逃さない!4つ横の席で置き去りのそのセットを:「充実著しく本格化。一気に重賞奪取」

- ◎ダービー御優勝馬の前走成績◎
15年ダンツジャツジ 東風S④
16年マイルネルゲル 東風S⑥
17年ダイワメジャー 5ヵ月休
18年グレイトジャーニー 東風S③
19年ビカレストコート 準OP①
20年サイレントブライド 東新聞②
21年タケミカツチ 東風S②
22年ショウワモダン 東風S③
23年ブリツェン 準OP①
24年ガルボ 阪急杯⑤

人の母の名はアイコ。タニノハービーの母はアイコちゃん。それを知って雄さんはバドックで写真を撮った。平地は11戦0勝。障害に転じて6戦目にタニノハービーは勝った。感激して雄さんは帰宅後、タニノハービーの血統を調べてびっくり。アイコちゃんの母はマサコちゃん、雄さんの祖母と同名だった。20年近く競馬をやっていて、タニノハービーが、最も忘れられない一頭になりました。と手紙を読み、雄さんの思いも、この世の幸せというものだな、と私は思った。大阪杯はオルフェーヴルショ。⑤①③⑤⑦と馬単2点勝負。ダービー脚CTはトウケイハイローに賭けて、⑬①③⑤①⑩と馬単3点。